

令和2年度

飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況等検証結果報告書

令和2年10月
飯塚市総合戦略推進会議

平成 26 年に施行された「まち・ひと・しごと創生法」の規定に基づき、平成 27 年 10 月に「第 1 次飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略（計画期間：平成 27～令和元年度）」（以下「第 1 次総合戦略」という。）が策定され、近年急激に進行している少子高齢化や人口減少等の課題に的確に対応し、活力ある持続的な地域の創生に向けた取組が行われています。

本会議は、平成 28 年 4 月に設置された外部委員で構成する検証組織で、市総合戦略の進捗状況や、その効果等を検証するため、本年 9 月に会議を行いました。なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、書面での開催としています。会議においては、第 1 次総合戦略に関する進捗状況の確認と検証及び国庫補助を活用し、実施した地方創生推進交付金事業の 1 事業及びまち・ひと・しごと創生寄附活用事業の 1 事業に関する検証を実施いたしました。第 1 次総合戦略については、令和 2 年 3 月末で計画期間完了であることから、4 つの基本目標と基本目標達成のための具体的な事業の推進に伴う重要業績評価指標 (KPI) の総括検証を行いました。交付金事業及び寄附活用事業については、2 事業の令和元年度までの実績と成果等を振り返り、効果検証を行いました。

地方創生の推進にあたっては、人口減少に歯止めをかけることや、活力ある地域を持続していくことなどに対し、選択と集中による効果的で効率的な施策及び具体的な事業の取組と、その適切かつ確実な推進が必要と考えます。

そのため、各施策等の取組においては、内容の有効性のみならず推進状況の透明性の確保が重要であり、行政内部のふりかえりだけではなく、外部の視点による検証が大切であると考えます。

今回、別紙のとおり検証結果を取りまとめ、会議において各委員からいただいた意見を付して報告致しますので、各施策等の必要性について十分に再検討を行っていただき、現在実施中の『第 2 次飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略』及び今後の予算編成や施策構築の参考として活用していただきますようお願いいたします。

飯塚市 総合戦略推進会議

委員長

安永卓生

飯塚市総合戦略推進会議委員 名簿

飯塚市総合戦略推進会議（令和2年9月）開催時

構成所属団体名等	役職等	氏名
九州工業大学	情報工学部 学部長	安永 卓生
九州大学	九州大学大学院 法学研究院 教授	出水 薫
飯塚市自治会連合会	理事	逢坂 忠男
	理事	多田 憲昭
小中学校PTA連合会	飯塚市PTA連合会 母親代表	下見 頼子
部落解放同盟飯塚市協議会	書記長	安永 勝利
医師会	会長	西園 久徳
嘉飯桂産業振興協議会	会長	小笠原 真照
福岡県	飯塚中小企業振興事務所長	野田 幸治
福岡銀行	飯塚支店 支店長	田中 久稔
西日本シティ銀行	飯塚支店 支店長	岸本 多可志
飯塚信用金庫	専務理事	赤間 光博
連合福岡 遠賀川地域協議会	飯塚市職労	吉井 陽代
筑豊報道責任者会議	西日本新聞社 筑豊総局長	高木 昭彦

（任期：2018（平成30）年10月4日～2020（令和2）年10月3日）

第1次飯塚まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要

	大学力と連携し、地域経済を牽引するまちづくり	基本的な方針	KPI
基本目標 1	数値目標 1-1 支援による新規雇用者数 1-2 プロジェクト創出件数	① 医工学連携をはじめとした新産業の創出 ② 地場企業の育成・企業立地の促進 ③ 創業の支援 ④ 大学との連携推進	① 新規プロジェクト活動支援件数 ②-1 企業立地件数 ②-2 支援による就職者数 ③-1 創業支援による創業件数 ③-2 支援による新規就業者数 ④ 大学との連携事業件数
基本目標 2	数値目標 2-1 合計特殊出生率 2-2 子育てしやすいまちと評価する人の割合	⑤ 婚活支援 ⑥ 妊娠・出産・子育ての一貫した支援 ⑦ 子育てしやすい環境の充実 ⑧ 仕事と生活の調和に向けた支援	⑤-1 イベント、セミナー参加者数 ⑤-2 イベントに満足している人の割合 ⑥-1 産科医・小児科医の相談医登録件数 ⑥-2 不妊治療女性件数 ⑥-3 子育て支援希望・協力者登録者数 ⑦-1 待機児童数 ⑦-2 放課後児童クラブ入所割合 ⑧ 休日等子育て支援事業利用件数
基本目標 3	数値目標 3-1 小学校「全国標準学力NRT、CRT」 中学校「標準学力分析検査」の平均値 発展、応用の学力の指標となる 3-2 「全国学力・学習状況調査」の平均値	⑨ 特色ある学校教育の推進 ⑩ 学力レベルの向上 ⑪ 国際交流を通じたひとづくり ⑫ 高等教育支援	⑨-1 自校の教育に対する児童生徒と保護者の満足度 ⑨-2 全国学力・学習状況調査の正答率 ⑩ 授業に対してよく理解していると感じている児童生徒の割合 ⑪ 英語力向上に係る取組で楽しいと感じている児童生徒の割合 ⑫ 小学資金募集定員における新規貸し付け人数の割合
基本目標 4	数値目標 4-1 社会増減の純移動率 4-2 1人あたり医療費	⑬ 健幸都市いづかの実現 ⑭ 拠点連携型の都市づくりの推進 ⑮ 観光の振興、地域資源の活用 ⑯ 新しい時代を担う地域づくりの推進	⑬-1 健幸都市いづか関連事業参加者数 ⑬-2 特定検診受診率及び特定保健指導率 ⑬-3 地域包括ケア拠点での在宅復帰に向けた相談対応件数 ⑭-1 コミュニティバス等公共交通の利用者数 ⑭-2 立地適正化計画の策定都市機能誘導区域の設定数 ⑮-1 観光客入込客数 ⑮-2 ツアー団体件数 ⑯-1 買い物支援サービス等延べ利用者数 ⑯-2 自治会加入率 ⑯-3 自主防災組織数

■ 第1次飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略 数値目標一覧表

数値目標

	数値目標内容	基準値	目標値 (2019年度)	実績値 累計 または 平均	H27	H28	H29	H30	R1
					実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
1-1	支援による新規雇用者数	—	420人	357人	88	97	99	38	35
1-2	プロジェクト創出件数	—	58件	106件	18	23	22	21	22
2-1	合計特殊出生率	1.63	1.7	1.57 (暫定)	1.67	1.72	1.75	1.57	未確定
2-2	子育てしやすいまちと評価する人の割合	—	50%	39.80%	—	—	—	39.80%	—
3-1	小・中学校全国標準学力検査NRT・CRTの 平均値が全国平均を上回った学校数	小中学校32校中 26校	32校	27校	小=21 中=5	小=22 中=5	小=20 中=4	小=18 中=6	小=19 中=8
3-2	「全国学力・学習状況調査」の平均値	小=98.5、中= 98	100 以上	小=100.1 中=98.1	小=99.8 中=98.3	小=99.8 中=98.3	小=100.3 中=97.5	小=100.5 中=98.3	小=100.8 中=97.1
4-1	社会増減の純移動率	ゼロ (2014年度)	ゼロを 維持	-0.96	-1.24	1.60	-0.20	-0.96	-0.63
4-2	1人あたり医療費	国保 366千円 後期高齢 1,113,千円	国保 366千円 後期高齢 1113千円	国保 398千円 後期高齢 1,154千円	385千円 1,122千円	375千円 1,113千円	392千円 1,121千円	398千円 1,154千円	未確定

■ 第1次飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略 K P I 一覧表

重要業績評価指標 (KPI)

	K P I 内容	基準値	目標値 (2019年度)	実績値 累計 または 平均	H27	H28	H29	H30	R1
					目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
					実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
①	新規プロジェクト活動支援件数	—	16件	17件	4	3	3	3	3
					4	4	3	3	3
②-1	企業立地件数	2件 (2014年度)	18件	16件	6	4	3	3	2
					4	5	4	1	2
②-2	支援による就職者数	—	405人	344人	151	58	99	49	48
					84	94	97	36	33
③-1	創業支援による創業件数	—	18件	98件	4	4	4	3	3
					27	19	23	19	10
③-2	支援による新規就業者数	—	15人	13人	3	3	3	3	3
					4	3	2	2	2
④	大学との連携事業件数	—	24件	72件	4	5	5	5	5
					9	15	15	16	17
⑤-1	イベント、セミナー参加者数	104人	900人	384人	180	180	180	180	180
					116	117	78	73	未実施
⑤-2	イベントに満足している人の割合	71.60%	80%	73%	80	80	80	80	80
					78	72	60	73	未実施
⑥-1	産科医・小児科医の相談医登録件数	—	30件	未実施	6	6	6	6	6
					未実施	未実施	未実施	未実施	未実施
⑥-2	不妊治療助成件数	—	480件	86件	—	120	120	120	120
					—	15	24	23	24
⑥-3	子育て支援希望・協力者登録者数	—	400人	397人	400	400	400	400	400
					382	401	384	394	397
⑦-1	待機児童数	ゼロ	待機児童数ゼロ を継続	36人	0	0	0	0	0
					0	0	0	28	36
	放課後児童クラブ入所割合登録児童数 (H29指標変更)	1,734人	2,064人	— (H29指標変更)	1990	1996	2023	2030	2064
					1837	1893	1857	—	—

■ 第1次飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI一覧表

重要業績評価指標 (KPI)

⑦-2	放課後児童クラブ入所割合	100%	100%を継続	100%	100	100	100	100	100
					100	100	100	100	100
⑧	休日等子育て支援事業利用件数	39件	300件	188件	60	60	60	60	60
					33	49	28	21	57
⑨-1	自校で実施されている教育について満足している児童生徒、保護者の割合	—	80%以上	未実施	80%	80%	80%	80%	80%
					未実施	未実施	未実施	未実施	未実施
⑨-2	全国学力・学習状況調査の正答率（全国平均を100とする）	—	100.4%	98.9%	100.4%	100.4%	100.4%	100.4%	100.4%
					99.1%	99.1%	98.9%	99.4%	98.9%
⑩	自校で実施されている授業に対して、よくわかる、よく内容を理解していると感じている児童生徒の割合	—	80%以上	77.4%	80%	80%	80%	80%	80%
					71.5%	73.0%	75.4%	72.9%	77.4%
⑪	自校で実施されている英語力の向上に関わる取り組みについて、「授業が楽しい」と感じている児童生徒の割合	—	80%以上	87%	80%	80%	80%	80%	80%
					未実施	89%	89%	87%	87%
⑫	奨学資金募集定員おける新規貸付人数の割合	14%	50%	86%	50%	50%	50%	50%	50%
					6%	19%	11%	100%	86%
⑬-1	「健幸都市いいづか」関連事業参加者数	11,000人	171,000人	241,920人	34,200人	34,200人	34,200人	34,200人	34,200人
					37,224人	44,859人	48,139人	56,361人	55,337人
⑬-2	特定健診受診率	46.7%	60%	44.0%	60%	60%	60%	60%	60%
	特定保健指導率	73.6%	80%	54.0% (暫定)	80%	80%	80%	80%	80%
⑬-3	地域包括ケア拠点での在宅復帰に向けた相談対応件数	—	200件	58件	200	200	200	200	200
					—	51	54	49	58
⑭-1	コミュニティバス等公共交通の利用者数	62,881人	65,000人	82,349人	65,000人	65,000人	65,000人	65,000人	65,000人
					75,513人	76,884人	78,965人	74,655人	82,349人
⑭-2	立地適正化計画の策定	—	立地適正化計画の策定	策定	—	策定	—	—	—
	都市機能誘導区域の設定	—	都市機能誘導区域の設定	設定	—	設定	—	—	—
⑮-1	観光入込客数	232万人	355万人	170万人 (暫定)	257万	281.2万	306万	330.4万	355万
					209万	191万	185万	170万	未確定

■ 第1次飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI一覧表

重要業績評価指標 (KPI)

⑮-2	ツアー団体件数 (国内・国外)	—	100件	311件	100	100	100	100	100
					152	100	25	94	311
⑯-1	買物支援サービス等延べ利用者数	—	3,600人	12,943人	3,600人	3,600人	3,600人	3,600人	3,600人
					147人	461人	821人	5,847人	12,943人
⑯-2	自治会加入率	62%	72%	57.0%	72%	72%	72%	72%	72%
					62.0%	60.8%	60.3%	58.0%	57.0%
⑯-3	自主防災組織数	16組織	20組織	24組織	16	17	18	19	20
					16	16	16	21	24

令和2年度 飯塚市総合戦略推進会議 意見

第1次飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略に対する意見

- 健幸ポイント事業の電子化について、大いに評価します。
今後は、利用者を増やし、更に「健幸」という視点で健康づくりから、まちづくり、交流、豊かな人間関係の形成、ボランティア活動や人権意識の向上の取り組みに拡大してほしい。
- 買い物支援については、公共交通の減少に伴い強化が必要になっていくのでは。
- 自治会加入率が少ないので、対策が望まれる。
- 市民として一緒に協力でき、飯塚市民にとって住みやすい所をもっとわかっていただけるように今の私にできることをさせていただきたいと思っています。市にも何か協力していただけないか相談したいと思っています。
今後も一緒に頑張らせていただけるとありがたいです。
- 各数値目標の相互関係が不明確で、また未実施などの項目への注釈も足りません。担当部署が、真摯に考えることが重要です。そのためには、市民が読んで納得できる分析と説明文章の作成という「負荷」をかけざるをえません。

令和元年度 地方創生交付金対象事業検証シート (①推進交付金)

シート番号 ①-1

事業名		福岡県移住支援事業・マッチング移住支援事業及び起業支援事業			担当部局課	行政経営部 総合政策課	
事業概要		国が推進している東京圏からのUIJターン推進のための目玉施策として、地方創生推進交付金（移住・起業・就業タイプ）が創設され、県においても推進交付金を活用した移住支援事業について実施することとなり、県事業と連携し、移住支援金制度を創設し、東京圏からのUIJターンの促進を図るもの。					
主な取組内容 (事業費内訳)		移住支援金の交付（2人以上の世帯 1,000千円、単身世帯 600千円） （要件：東京圏（23区在住者又は23区への通勤者）からUIJターンで、県内の中小企業等（福岡県のマッチング支援サイトに登録されている）に就業若しくは県内で起業する者）※ 対象要件有					
事業決算額		0千円	交付金充当額	0千円	一般財源充当額	0千円	
事業始期		令和元年度		事業終期	令和5年度		
重要業績 評価 (KPI)①	指標	補助金の交付					
	飯塚市 総合戦略	基本目標Ⅳ：「健幸で魅力あふれるまちづくり」 KPI：数値目標は地域再生計画の移住就業者数					
	目標値	移住就業者数 2019年度 7名、2021年度14名（年間）					
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	計画	7人	14人	14人	14人	14人	14人
	実績	0人	—	—	—	—	—
	進捗率	0.0%	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!
	実績数値 算出方法	交付決定件数による移住就業者数の把握。			単年度 評価	○	【A】：目標値を達成した 【B】：目標値の70%以上を達成 【C】：目標値の50%以上を達成 【D】：目標値の50%未満
	効果発現 要因	国が定めた（地方創生推進交付金を活用した）対象条件が厳しいため、申請に至っていない。今後は国が要件を見直しを行うので、県と連携し要件の緩和を実施予定。				総合 評価	○
	目標達成 への 課題等	対象要件の緩和及び事業の周知。緩和については、国に動向を把握し、福岡県と足並みを揃え、要件の緩和（要綱の改正）を行う。					
重要業績 評価 (KPI)①	今後の 取組の 方向性	移住支援金事業を実施していることを、特に東京圏の方々にPRしていく必要があるが、新型コロナウイルス感染症対策で移住相談会等のイベント開催が困難であることから、イベントに頼らないPR・周知活動を検討し実施していく必要がある。					

交付金事業の 地方創生への効果		【A】：地方創生に非常に効果的であった（全てのK P I が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる）
		【B】：地方創生に相当程度効果があった（一部のK P I が目標値を達成しなかったが、概ね成果が得られたとみなせる）
	○	【C】：地方創生に効果があった（K P I の達成状況は芳しくなかったが、事業開始前よりも取組みが改善したとみなせる）
		【D】：地方創生に対して効果がなかった（K P I の達成状況が事業開始前よりも悪化もしくは取組みが改善したと言い難い）

事業検証にかかる 委員意見（抜粋）	委員の判定状況（有効であった：6 有効とはいえない：7 判定できない：1）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実績は上がっていないが、課題の把握や今後の方向性は適切であると考える。 ・県のマッチング支援サイトに登録されている県内の中小企業等は247件にとどまり、市内を勤務地とする企業はわずか3社であることから、特定企業への就業者の優遇という側面が強くなってしまっている印象を受ける。移住支援及び企業支援を目的とするならば、世帯当たりの交付金額を縮小し、より多くの移住者を支援するための枠組みを見直す必要がある。同支援サイトの登録企業数の拡大、コンテンツの質や利便性の向上などの抜本的な改善が必要である。 ・実績から有効とはいえない。就業機会の増加と共に、職住一致のメリットを積極的に打ち出す施策が必要。 ・移住先の候補として飯塚市が選択肢に入るような施策が必要。 ・国が定める要件に該当することが困難であるならば、要件の緩和等を積極的に働きかけるべき。 ・移住の経験がないため分からないが、希望職種、就職機会、賃金などが都市部と比べ少ないと感じる。 ・セッティングコーディネーター、お試し移住などの代替事業が必要。 ・交付金事業の地方創生への効果の判定がCではなく、Dであるべき。 	

令和元年度 まち・ひと・しごと創生寄附活用事業検証シート (②企業版ふるさと納税事業)

シート番号 ②

事業名	飯塚国際車いすテニス大会を基軸としたテニスのまちづくり			担当部局課	行政経営部 総合政策課		
事業概要	本市で開催される国際的なスポーツ大会である「車いすテニス大会」が、将来にわたり安定的で、かつ充実した内容のもとに継続的に開催されていくように、H28年度に創設された「地方創生応援制度（ふるさと納税）」を活用して、企業からの寄附を受付、メイン会場である筑豊ハイツテニスコート等の関係施設の維持管理や保全改修、さらには情報発信のための通信環境設備の整備を実施するもの。						
主な取組内容 (事業費内訳)	地域再生計画計上内容 ①筑豊ハイツテニスコート整備事業 (H30：なし R1:107,000千円) ②筑豊ハイツ宿泊施設整備事業 (H30:696,941千円 R1:803,824千円) ③車いすテニス大会情報発信強化事業 (H30:2,775千円 R1:210千円) この計画を実施することにより、本大会の継続開催とさらなる魅力発信が可能になり、参加選手や観客数、ボランティアの増加に繋がる。						
事業決算額	853,782 千円	寄附額	1,000 千円	一般財源充当額	852,782 千円		
事業始期	平成30年11月	事業終期	令和2年3月				
重要業績 評価 (KPI)①	指標	参加選手数					
	飯塚市 総合戦略	基本目標Ⅳ：「健幸で魅力あふれるまちづくり」④新しい時代を担う地域づくりの推進 (観光入込客数 5年間で「355万人」)					
	目標値	参加選手数 基準年度：97人 目標値：100人 (3年目)					
		事業開始前	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計	検証年度までの累計
	計画	97人	97人	100人	-	197人	197人
	実績	97人	97人	100人	-	197人	197人
	進捗率		100.0%	100.0%	#VALUE!	100.0%	100.0%
	実績数値 算出方法	大会登録者数をテニス協会に確認して把握する。			単年度 評価	○	【A】：目標値を達成した 【B】：目標値の70%以上を達成 【C】：目標値の50%以上を達成 【D】：目標値の50%未満
	効果発現 要因	大会開催を4月に変更したため、他の国際大会との重なりが減り、出場可能選手が増えた。			総合 評価	○	【A】：目標値を達成した 【B】：目標値の70%以上を達成 【C】：目標値の50%以上を達成 【D】：目標値の50%未満
	目標達成 への 課題等	特になし。					
重要業績 評価 (KPI)①	今後の 取組の 方向性	開催月を見直したことで、天皇・皇后杯の下賜による認知度が上がったことにより効果があったため、引き続き同様に実施する。					

重要業績 評価 (KPI)②	指標	大会観客数						
	飯塚市 総合戦略	基本目標Ⅳ：「健幸で魅力あふれるまちづくり」④新しい時代を担う地域づくりの推進 (観光入込客数 5年間で「355万人」)						
	目標値	大会観客数 基準年度：6,200人 目標値：6,400人						
		事業開始前	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計	検証年度までの累計	
	計画	6,200人	6,200人	6,400人	-	12,600人	12,600人	
	実績	6,200人	6,200人	7,100人	-	13,300人	13,300人	
	進捗率		100.0%	110.9%	#VALUE!	105.6%	105.6%	
	実績数値 算出方法	大会観客数を実行委員会に確認して把握する。				単年度 評価	○	【A】：目標値を達成した
								【B】：目標値の70%以上を達成
								【C】：目標値の50%以上を達成
							【D】：目標値の50%未満	
効果発現 要因	天皇杯・皇后杯であること、共生社会ホストタウンとして認定を受けたこと、南アフリカの事前キャンプ地となったことにより、大会の認知度が上がった。				総合 評価	○	【A】：目標値を達成した	
							【B】：目標値の70%以上を達成	
							【C】：目標値の50%以上を達成	
目標達成 への 課題等	特になし。							
今後の 取組の 方向性	「天皇杯・皇后杯」が下賜されたことや、共生社会ホストタウンとして認定を受けたこと、南アフリカの東京パラリンピック事前キャンプ地として決定されたことについて、更なる情報発信をする。							

重要業績 評価 (KPI)③	指標	宿泊者数					
	飯塚市 総合戦略	基本目標Ⅳ：「健幸で魅力あふれるまちづくり」④新しい時代を担う地域づくりの推進 (観光入込客数 5年間で「355万人」)					
	目標値	宿泊者数 基準年度：2,015人 目標値：2,100人					
		事業開始前	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計	検証年度までの累計
	計画	2,015人	2,015人	2,100人	-	4,115人	4,115人
	実績	2,015人	2,015人	2,196人	-	4,211人	4,211人
	進捗率		100.0%	104.6%	#VALUE!	102.3%	102.3%
	実績数値 算出方法	大会期間中の1日の総宿泊者数を市内宿泊施設に確認して把握する。 (のがみプレジデントホテル、ステーションホテル、ホテルニューガイア、センチュリーホテル、筑豊ハイツ)				単年度 評価	○ 【A】：目標値を達成した 【B】：目標値の70%以上を達成 【C】：目標値の50%以上を達成 【D】：目標値の50%未満
	効果発現 要因	天皇杯・皇后杯であること、共生社会ホストタウンとして認定を受けたこと、南アフリカの事前キャンプ地となったことにより、大会の認知度が上がった。				総合 評価	○ 【A】：目標値を達成した 【B】：目標値の70%以上を達成 【C】：目標値の50%以上を達成 【D】：目標値の50%未満
	目標達成 への 課題等	特になし。					
今後の 取組の 方向性	「天皇杯・皇后杯」が下賜されたことや、共生社会ホストタウンとして認定を受けたこと、南アフリカの東京パラリンピック事前キャンプ地として決定されたことについて、更なる情報発信をする。						

重要業績 評価 (KPI)④	指標	ボランティア						
	飯塚市 総合戦略	基本目標Ⅳ：「健幸で魅力あふれるまちづくり」④新しい時代を担う地域づくりの推進 (観光入込客数 5年間で「355万人」)						
	目標値	ボランティア数 基準年度：2,000人 目標値：2,100人						
		事業開始前	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計	検証年度までの累計	
	計画	2,000人	2,000人	2,100人	—	4,100人	4,100人	
	実績	2,000人	2,000人	2,000人	—	4,000人	4,000人	
	進捗率		100.0%	95.2%	#VALUE!	97.6%	97.6%	
	実績数値 算出方法	ボランティア数を実行委員会に確認して把握する。				単年度 評価	○	【A】：目標値を達成した 【B】：目標値の70%以上を達成 【C】：目標値の50%以上を達成 【D】：目標値の50%未満
	効果発現 要因	例年通りの協力を得た。				総合 評価	○	【A】：目標値を達成した 【B】：目標値の70%以上を達成 【C】：目標値の50%以上を達成 【D】：目標値の50%未満
	目標達成 への 課題等	新規ボランティアの増加に苦慮している。						
今後の 取組の 方向性	「天皇杯・皇后杯」が下賜されたことや、共生社会ホストタウンとして認定を受けたこと、南アフリカの東京パラリンピック事前キャンプ地として決定されたことなど、更なる情報発信をすることにより、テニス大会への関心を高め、ボランティアの増加を図る。 また、地元学生等の協力を得やすい体制づくりをする必要がある。							

交付金事業の 地方創生への効果	○	【A】：地方創生に非常に効果的であった（全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる）
		【B】：地方創生に相当程度効果があつた（一部のKPIが目標値を達成しなかったが、概ね成果が得られたとみなせる）
		【C】：地方創生に効果があつた（KPIの達成状況は芳しくなかったが、事業開始前よりも取組みが改善したとみなせる）
		【D】：地方創生に対して効果がなかった（KPIの達成状況が事業開始前よりも悪化もしくは取組みが改善したと言ひ難い）

事業検証にかかる 委員意見（抜粋）	委員の判定状況（有効であった：1 2 有効とはいえない：2 判定できない：0）
	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックの延期を活かし、飯塚版のWithコロナ時代のスポーツのあり方を提案することが重要。 ・コロナ禍のスポーツ大会開催のガイドライン等を参考に開催準備し、まちづくりにつなげてほしい。 ・ハード整備は安定かつ充実した大会を継続していくために必要な施策。今後も参加選手や観客から評価される水準の施設を維持していくための整備は継続していくべき。一方、「テニスのまちづくり」とはどのような状態なのかをイメージできるよう情報発信が必要。本大会を市民とテニスファンのみをターゲットとした大会ではなく、普段テニスを観戦しない人たちも巻き込み、まちづくりまで発展させるためには、施設の整備と情報発信だけでは限界があるため、本大会周辺でエンターテイメント的な要素を取り入れてはどうか。また、大会だけでなく大会以外のテニスをテーマとした各種取組みを通じて、テニスファン以外の方との接点を作り、競技との心の距離を縮める取組みも大切。 ・大会の認知度向上とともに、数値化は難しいが飯塚市のイメージアップは計り知れない。まちづくりに積極的に活用できるコンテンツ。新しくなった筑豊ハイツを積極的にPRが必要であり、ボランティアが支えるイヅカ方式を大会以外でも応用できると素晴らしい。 ・「主な取組内容（事業費内訳）」とKPI達成の因果関係について、踏み込んだ説明が必要だと考えます。 ・ボランティア数の分析が不十分です。とくに、「主な取組内容（事業費内訳）」③車いすテニス大会情報発信強化事業との相関についての分析を加えるとともに、それを踏まえた次年度への改善方針が必要。